

東濃社会教育だより

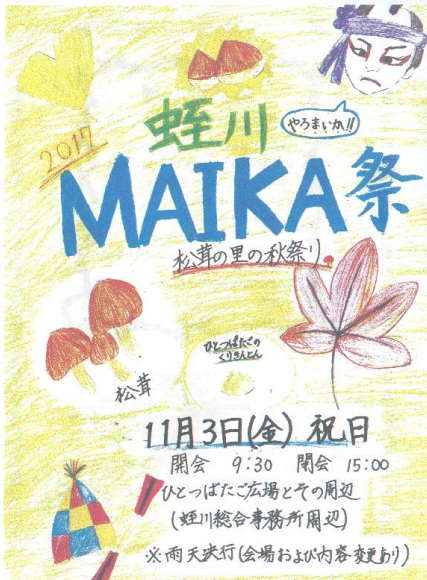
-中学生の参画 学校編-



恵那県事務所
振興防災課 振興係
社会教育担当:岩島 哲也
〒509-7203
恵那市長島町正家後田 1067-71
TEL:0573-26-1111 内線 208

蛭川MAIKA祭

~今回のピックアップ事業~



【中学2年生作成のチラシ】

秋晴れの11月3日、ひとつばたご広場とその周辺において、蛭川MAIKA祭が実施されました。昨年度、中学生が参画している、という情報を聞きましたが、それがMAIKA祭終了後でしたので、今年度はMAIKA祭当日、実際の様子を見るために現地に伺いました。

中津川市立蛭川中学校 中嶋香代子校長先生に会場をご案内、各関係者をご紹介いただきながら、会の進行・全体の様子を拝見しました。

一番に感じたことは、各ブースに居る中学生が地域の方と自然な関わりをもちながら、生き生きと活動できていた点です。地域の方からは『中学生を、将来を担う地域の一員として頼りにしている（認めている）』、中学生は『地域の一員としての自覚をもち活動できている』ことが伝わってきました。換言すれば、『地域社会人』育成のために蛭川地区が一体となっている温かさを感じるお祭りでした。また、学校の思いと地域の思いが見事に合致した取組であると言えます。

具体的な取組内容、参加した生徒の思い等は以下の通りです。

① 『総合的な学習の時間』のテーマ“蛭川未来創生プロジェクト”

1年生から3年生まで「蛭川」のことを核として、その過程で様々な情報を獲得しながら、個人課題を生み出し、追究し、提言するという全学年を貫く系統的・発展的な計画が生まれ、実践されています。

また“蛭川未来創生プロジェクト”では、『与えられた学びから意志ある学びへ』をめざし、以下の①～③を大切にしています。

- ① 何のために（目的）何をやり遂げるか（目標）がわかっている。
- ② 時間管理ができる：いつまでにするのか学習者が知っている。
- ③ どう進めるのか自己調整（コントロール）できる。

【未来創生プロジェクト年間計画】

	1年	2年	3年
4月	蛭川の現状を知り、個人課題を創ろう 『ひとつばたご自然体験』	高野研修から帰郷の人の暮らしを知り、蛭川のおよそを知る。 ?那の体験研修 個人テーマ追究	蛭川未来創生プロジェクト 個人テーマ別に 必要に応じて、情報を収集する。
5月	蛭川の現状を知り、個人課題を創ろう 蛭川社会福祉協議会事業 『思い出あふれるあいらびの企画展』	蛭川の活性化をお祭りを通して考える。 『MAIKA祭サミット』 企画・運営提案	蛭川未来創生プロジェクト 推進 『自治会サミット』
6月	高野研修「体験大空の広野隊」参加		
7月	蛭川の現状を知り、個人課題を創ろう 蛭川の伝統文化、わらじ・お籠りの製作 ・お祭り体験		
9月	高野研修「下むらさきの産産祭の回帰式」を出す	蛭川の活性化をお祭りを通して考える。 『MAIKA祭サミット』 チラシ配布	蛭川未来創生プロジェクト 個人課題 提言内容を整理 テーマ別講話
10月		蛭川の活性化をお祭りを通して考える。 『MAIKA祭サミット』 企画・運営	
11月	蛭川の現状を知り、個人課題を創ろう 『高野研修』 ・お祭り配布		
12月		蛭川未来創生プロジェクト 個人課題（テーマ）別 東京研修先を選択、決定	蛭川未来創生プロジェクト 推進 蛭川未来創生への提言
1月	蛭川の現状を知り、個人課題を創ろう 『高野研修』		
2月		蛭川未来創生プロジェクト 個人課題（テーマ）別 東京研修先を選択、決定	蛭川未来創生への提言
3月	蛭川未来創生プロジェクト、個人課題決定		卒業式

テーマ

1年生…「蛭川の現状を知り、個人課題を創ろう」

（体験・学び）蛭川自然体験、高齢者との関わり、伝統文化、高齢者福祉

2年生…「蛭川の活性化を、お祭りを通して考えよう」

（体験・学び）海の体験（山との比較）、MAIKA祭サミット、MAIKA祭の企画・運営

3年生…「将来 蛭川の活性化のために提言をしよう」

（体験・学び）東京研修（蛭川活性化の手法体験）、自治会サミット、テーマ別講話、個人追究、提言（地域への発信）



② M A I K A 祭 へ の 参 画

<対象学年> 2年生34名
 <企画提案> 6月 MAIKA祭サミット

蛭川振興会の実行委員会と商工会青年部の方と共に協議する

H28 ソフトクリーム
 H29 松茸おにぎり
 販売の企画実現

- ・お祭りの活性化
- ・ブースの企画

「もっと広報に力を入れた方がよい」という意見

チラシの作成 (Gで1案作成し、コンテストを実施し、2、3案決定)

⇒ 蛭川振興会で決定 ⇒ 配付(2,800枚)

8月 少年の主張 岐阜県大会 (中津川市開催) にて
 10月 東美濃ふれあいセンター (第22回菓子祭り会場)、
 ピアゴ恵那店、パロー恵那店、オークワ中津川店、JR恵那駅

<当日の運営>

MAIKA祭全体の司会進行、自分たちが握った松茸おにぎりの販売、
 全校生徒で収穫した梅で地域の方々と共に製造した梅ジュースの販売 等



【MAIKA祭全景】



【1年生学年合唱】

生徒の感想

◎MAIKA祭の企画・運営に携わってみて、企画ではたくさんの人に
 来てほしいという思いで多くのボランティアを出し、そのボランティアを
 実際、当日は準備ができて嬉しかったです。(中略)すごく忙しか
 ったけど、五平餅を買っていくお客さんの笑顔を見て、大変だったけ
 どやってよかったと思います。当日だけでなく、何カ月も前から頑張
 って準備をしたから、運営を手伝っていた私たちも来てくれた人たち
 も楽しめたお祭りになったと思います。

◎サミットでは、MAIKA祭にもっと人に来てもらうために、何をし
 たらいいのかを考えてきました。二年生が考えて新しくできた松茸
 おにぎりは完売したと聞いてすごく嬉しかったです。チラシ作りでは
 蛭川の魅力を考え、秋らしいデザインで作しました。(中略)当日の活
 動で、私はきのこ抽選会の手伝いをしました。ずっと立っていたり、
 ひたすら同じ作業をしたりして大変だったけど、たくさんの方の笑顔
 を見ることができてありがたさを感じました。MAIKA祭で地域を盛
 り上げるのって頑張ったのって、他の行事では中学生が蛭川を盛り
 上げるのって初めてです。来年は自分たちでMAIKA祭の企画・運営の
 責任をしっかりと担ってみたいと思います。

蛭川中学校 中嶋香代子校長先生の想い

◇未来を切り拓く力を付けるために、中
 学生をボランティアとしてではなく、
企画からさせたいと考えていました。
 そのことを地区の振興会に諮ったとこ
 ろ、「地域のイベントがマンネリ化して
 おり、若い人の力を発揮する場所づくり
 として、とても有難い。」ということ
 で思いが一致しました。実際に企画から、
地域の方が中学生の意見を尊重し、任
 せてくださっており、『蛭川を故郷とし
 ていつまでも心に留めておいてほし
 い。』という思いが中学生にも伝わっ
 ています。この体験によって、生徒たち
 の視野が広がり、社会性が育成され、
 そして何よりも、蛭川の未来を担って
 いくのは、自分たちであるという自覚と自
 信につながり、大きな成長の機会となっ
 ています。

蛭川は、お願いすればすぐに応えてく
 ださる組織があり、人材の豊富さがあり
 ます。日頃から子どもたちを地域で育
 っているということを実感して
 います。



東濃地区社会教育振興大会から

11月7日(火) 恵那文化センター集会室にて、『第2回東濃地区社会教育振興大会』を開催しました。平成24年度に社会教育委員と公民館関係者それぞれの協議会を統合し成立した『東濃地区社会教育振興協議会』は、毎年夏季研修会を実施していますが、振興大会は平成26年度に第1回を実施して以来、2回目の開催でした。(3年に1回開催という取り決め事項有)

夏季研修会との違いは、公民館関係者・社会教育委員・行政担当者の出席のみならず、青少年育成委員・学校関係者(PTA担当者)までお招きして、地域と学校の連携・協働を目指して、共に学び、考える機会であることです。

第2回となった今回は、来賓4名、行政担当者24名、青少年育成委員(専門職)10名、学校関係者(PTA担当者)20名、社会教育委員21名、公民館関係者27名の総勢106名の方に出席いただきました。

お忙しい中、ご参加頂きまして、誠に有難うございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

会 次 第

【開会】 受付 13:00~13:20

① 開会の言葉(副会長)

② 挨拶

・会長	鈴木 美好
・恵那県事務所長	山口 義樹
・恵那市教育長	大畑 雅幸 様
・東濃教育事務所長	伊藤 慶和 様

③ 連絡 ・事務局 日程説明

【実践発表・質疑応答】

④ 瑞浪市 「日吉公民館活動の目標と取組について」 → ①

⑤ 恵那市 「こどもフェスタの取組」 → ②

(休憩)

【講演会】

⑥ 講評

⑦ 講演 → ③

学校と連携する地域の在り方
～人とのつながりが人を育て、地域を創る「地域社会人」～
講師 岐阜県社会教育委員連絡協議会 会長 西村 覺良 氏

⑧ グループ交流 → ④

⑨ 全体交流

⑩ 所感

【閉会】

⑪ お礼のあいさつ(監事)

⑫ 閉会の言葉(副会長)

⑬ 諸連絡(事務局)

⑭ アンケート記入



【振興大会全体会】

参加者アンケートのまとめより

① 瑞浪市「日吉公民館活動の目標と取組について」

・少子高齢化という地域の実態を生かして、色々な活動を計画実践している様子に、今後の社会教育のあり方を学びました。子どもの学びだけでなく、大人の学びとコミュニケーションを大切にすることが重要だと思いました。

・公民館の使命(地域の玄関)となる様々な実践をされていることに感心しました。実施内容(活動)もあまり気負いなく参加できそうな内容を精選しているところにも魅力を感じました。身近な公民館のイメージで、足を向けようかな!の気持ちがあきそうです。

② 恵那市「こどもフェスタの取組」

・参加した小学生が、中高生とボランティアで参加し、社会人になってからは主催として参加していくといった継続、繰り返しの流れが、今後の重要なことになる方向を大切にしたい。

・子どもが中心となって取り組み展開していく、企画から始め運営はもとより最後の片づけまで非常によい体験となり、一生の思い出となることでしょう。私の地域でも企画したいと思いました。また、ボランティアを体験することは、人間がひと回り大きくなると思いました。

③ 講演『学校と連携する地域の在り方 人とのつながりが人を育て、地域を創る「地域社会人」～』

講師：岐阜県社会教育委員連絡協議会 会長 西村 覺良 氏

・学校と地域との関係について「互に対等であること」について共感しております。また評価基準が子どもの笑顔であることも同感です。地域住民の思いや願いを上手く吸収し、情報としてとりまとめられる機関や組織の必要性を感じさせていただきました。

・目指す姿の明確化がキーワードの1つと感じた。地域との連携、公民館の活用、全て目的と目指す姿があつてのこと。そう考えると学校か地域、どちらかがまずリーダーシップをとって動き始めることが必要なのではないかと思う。

・学校・家庭・地域のコラボの大切さ。どこかに頼るのではなく、それぞれの特性を生かし、対等に意見を言い合い、コラボレーションができるというところがわかりました。

④ グループ交流 「西村先生の講話から考えること ～自分の地域・学校の状況と照らし合わせて～」

【アンケート集計より】

満 足	概ね満足	やや不満	不 満
24	40	5	0
35%	58%	7%	0%
93%		7%	

・それぞれの立場から学校と地域の連携について考えることができた。地域に「あるものを活かす」ことの大切さを感じた。

・先生、公民館長、社会教育委員の方々のいろいろな意見が出て、とても参考になりました。地域へ帰って実行できることもあり、話し合うことは大切だと思いました。

・西村先生のお話、司会者の方のお陰もあり、思い思いの意見が出ているように思えました。公民館のあり方等、市・地域によって違いがあることを認識しました。多々ある組織の連携が必要だと思いました。各々素晴らしい活動をしている中、共通認識をもって社会教育に携われるとより効果が出ると思いました。

・他地域の活動を聞かせていただき、よいところを取り入れていきたいと考えます。立場の違う人からの話を聞くことができ、大変参考になりました。



【瑞浪市 日吉公民館の実践発表】



【西村 覺良先生の講話】



【恵那市 子どもフェスタの実践発表】



【グループ交流全景】

◇実践発表からグループ交流まで、主体的な構えでご参加いただいたことが、事後アンケートのまとめの中からも見受けられました。西村先生の講話、グループ交流に係る評価・ご感想の「やや不満」の欄に○をつけられた方の大半が「もう少し詳しく話が聞きたかった。」「交流の時間がもっと欲しかった。」といった前向きな捉えてでした。また、他地域、異業種の混合グループについては、「幅広い立場の方から様々な意見が聞けてよかった。」という肯定的な意見が占めました。中でも今回、青少年育成委員、学校関係者（PTA関係者）の方々のご参加は、地域学校協働活動の推進に向け、貴重なご意見を頂け、極めて有難かったです。

来年度、振興大会はありませんが、せっかく学校関係者・青少年育成委員の方のご参加をいただき、地域学校協働活動について共に考えるきっかけの場となりましたので、8月24日【金】の東濃地区社会教育振興協議会研修会（日にちは決定）において、地域と学校の連携・協働について、改めてじっくり交流・話し合いができる場を設定したいと考えております。是非、ご参加いただきますようお願いいたします。詳細が決定しましたらお知らせします。